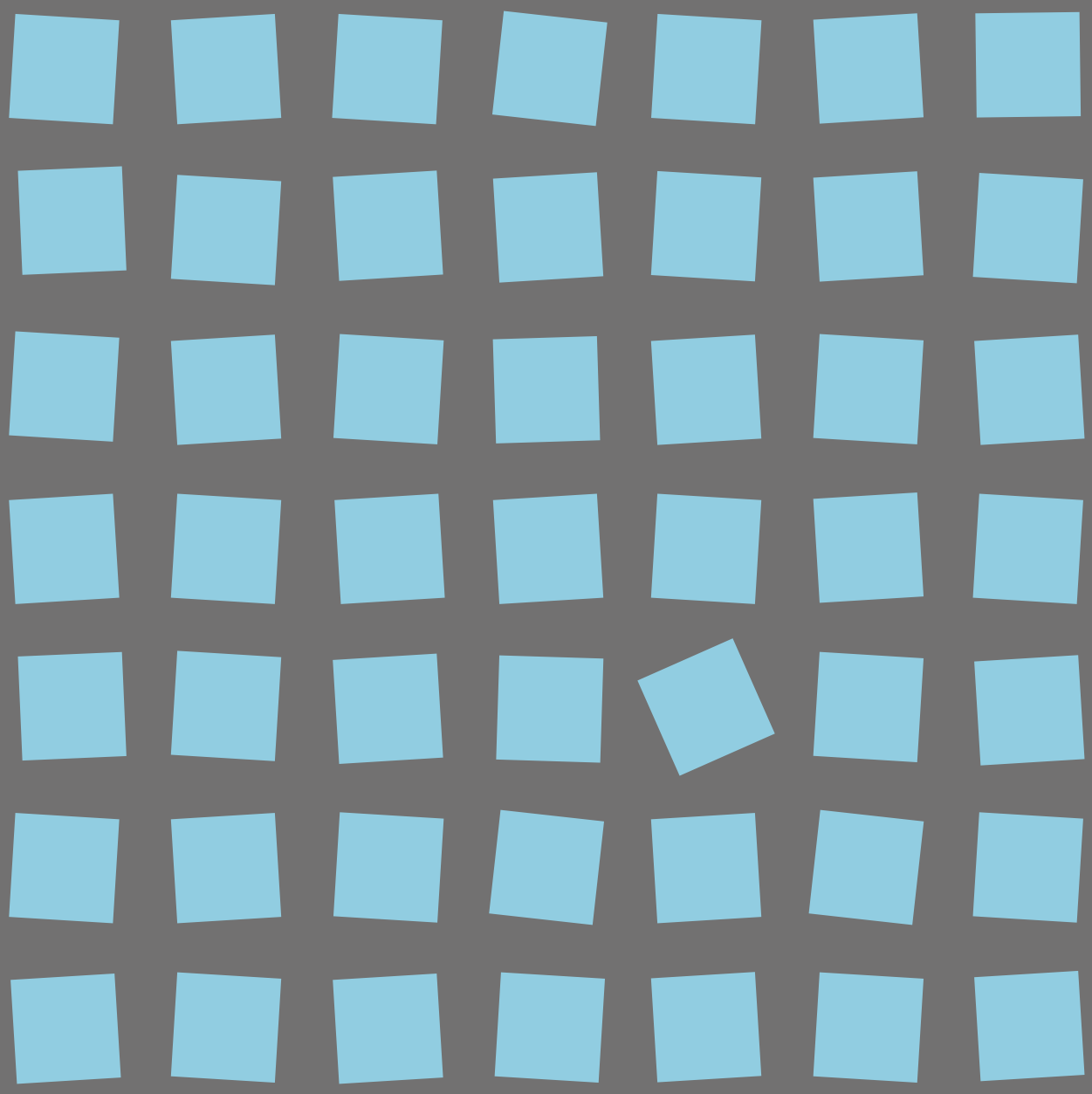


Contents

支部長挨拶	P2	わさもん	P16
とくべつきこう	P3-4	いまどき・もよおし	P17
まんゆうき	P5-8	協力会つうしん	P18
おしえて	P9-10	委員会報告	P19-21
とぴっくす	P11-12	地域会活動報告	P22
あのころ	P13-14	編集後記	P23
よかもん	P15		

公益社団法人 JIA
日本建築家協会九州支部

BULLETIN Kyushu BRANCH

The Japan Institute of Architects Kyushu branch

JUN.2022

九州で活躍する建築家のための情報誌

支部長挨拶

松山　将勝（九州支部長）

夏の到来が間近に感じる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

JIA九州支部は、5月21日に3年ぶりとなる対面での通常総会を開催致しました。全ての議案が承認され滞りなく終了しました事をこの場を借りてご報告申し上げます。本来であれば、今回の総会で支部長並びに支部執行部の人事は改選となりますが、この2年コロナ禍により予定されていたさまざまな事業が延期や中止を余儀なくされた状況もあり、現在の執行部体制でもう１期（2年）継続させて頂く事をご承認頂きましたので、引き続きご支援ご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。総会終了後は、六鹿会長と佐藤次期会長をお招きして会員集会を開催致しました。六鹿会長より6年間の総括と佐藤次期会長にはJIAの未来像をお話しいただき、大変有意義な会員集会であったと思います。

会員集会後の懇親会は総勢70名程の方々に参加いただき、3年ぶりに再会する喜びもあってか大盛況の懇親会となり、その様子を伺いながら改めてJIAの絆を感じた次第です。コロナ禍がなかなか落ち着きを見せない状況下で、集合形式での開催に踏み切るべきか苦渋の決断でしたが、感染者を出す事もなく無事に終えた事を安堵している所です。総会から懇親会まで準備をいただいた会員の皆様に心から感謝申し上げます。

本日6月29日は、JIA本部の通常総会が建築家会館で開催され、佐藤尚巳新会長が正式に承認され新体制がスタート致しました。2名の副会長はベテランの森副会長が留任され、もうひとりの副会長として、私が拝命されました事をご報告致します。副会長の人事はこれまで会員数の多い関東甲信越支部や近畿支部からの選出が通例でしたので、打診を頂いた時は私にこの大役が務まるのか悩みましたが、九州支部の諸先輩方の後押しもあり受諾をさせて頂きました。私にとってはまさに青天の霹靂といった所ですが、これまでの２年間本部理事会で発言してきた責任も含めて、微力ですが精一杯尽力して参りますので、今後もJIAに対しての忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

先日、6月21日に支部長漫遊記で大分に行って参りました。詳細は大分地域会重田会長のレポートをご覧頂ければと思いますが、大分は前々から注目していた地域会です。それは全国にはあまり類のない組織体「＋A」という若手建築グループが大分地域会には存在する事です。設計事務所の所員や学生などが所属しているこのグループのメンバーを中心に、毎年アートプラザ（磯崎新氏設計）で開催されてきたU40建築家展は、30代の若手建築家たちが自発的な活動として続けてきた発表の場です。地域をあげて若手を支援していく体制がある事を数年前に知り、個人的にも注目してきた大分に訪れる事をとても楽しみにしていました。支部長漫遊記としては最多数となる50名を超える参加者と幅広い世代の方々にお越し頂き、大分地域会の皆様に改めて感謝申し上げます。

今年度は、設計事務所に所属する所員を対象とした建築塾も熊本で再開する予定です。秋には北九州で支部大会も開催を予定しております。状況を見据えながらになりますが、この２年間開催できなかった事業も再開して参りたいと考えておりますので、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

最後になりますが、梅雨の晴れ間の美しい青空に夏らしさを覚える昨今、どうぞお健やかにお過ごしください。

追伸：本日開催された本部総会を終えその後の宴席から足早にホテルに戻り、明日発行されるブルテンの原稿を書いている所です。東京の夜景を見ながら、そのひとつひとつに人々の暮らしがあると思うと、抱えている悩みも小さく思えて楽になれた気持ちになります。

筆不精の私は、原稿提出が毎回締め切り間近になってしまいますが、広報の有吉さんにはいつも助けられています。大変な編集作業本当にありがとうございます。

２０２２年度通常総会

新地域会長・代表の自己紹介と所信表明

6月号の巻頭の「とくべつきこう」コーナは新年度から改選された九州支部の新しい8名の地域会長、代表幹事の自己紹介と所信表明を執筆いただきました。

塩釜　直人　北福岡地域会長

本年度より北福岡地域会の会長を務めますスズキ設計　塩釜です。当地域会を背負って来られた諸先輩方から、未来へ継承していく事を目指して挑んで参ります。松山支部長が提唱されている「未来への結束」を当地域会でも合言葉に、会員の輪を大切に、次世代への橋渡しとなるべく和気あいあいとした会の在り方を目指す所存です。今年は、９月開催予定（日程調整中につき変更の可能性があります）の九州支部大会を担当させて頂きます。当地域会のメイン事業の「日韓学生ワークショップ」の最終講評会をご覧頂けるよう準備を進めております。また、中間指導や中間講評会も７月から９月にＷＥＢにて視聴可能ですので、最終講評会へ向けて学生たちがどのような成長を遂げて来たかが見えて来るのでは無いかと思います。行き届かない事が多々あるかと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

福田　哲也　福岡地域会長

福岡地域会長2期目を仰せつかりました、福田哲也です。福岡地域会は「動く」をテーマに、やれることから一つずつ活動してまいります。まず月一開催の公開例会は、旬な講師による講演＋座談会や趣向を凝らした建築討論企画で対面中心に準備中です。昨年那珂川市で行われ好評を得た建築展、今年は9月に、福岡マリンメッセで開催予定です。また、昨年から始まった協力会オンラインセミナーも2年目に突入し、変わらず毎週金曜日お昼12：30～50にZOOM同じチャンネルで開催しております。事務所スタッフの皆様にもおすすめですので、皆様お気軽に視聴お待ちしております。さらには福岡以外でも今年は全国大会、支部大会、建築塾とイベントが目白押しで、会員皆様とお会いできる機会が多々ございます。人と人の繋がりを大事にこの一年JIA活動に尽力してまいりたいと思います。今期も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

野中　毅　佐賀地域会長

私は地元佐賀で公共建築を中心とした設計を行っております。また、佐賀地域会会長として4期目となりました。この2年間は定期的な例会開催のほか、他の地域会や学生会員との交流等を実施していこうと考えております。また、佐賀地域会の会員数は今年10名となり大変喜んでいるところです。これからも正会員の増強、さらに協力会員を募り、佐賀地域会を盛り上げ、活性化させようと考えており、今まで以上に佐賀地域会が有意義で、情報発信が多数できるような会を目標に運営を行っていく所存です。

鼻崎　象三　長崎地域会長

みなさん、こんにちは。本年度から長崎地域会長を拝命致しました鼻崎です。副会長を仰せつかった昨年度までの2年間はJIA活動には何のお役にも立てず、田中前会長にご迷惑ばかりおかけし誠に申し訳なく思っておりました。本年度は会長としてバリバリ頑張るぞ！と思い新ただったのですが、またまた活動への貢献度がなかなか上がらず少々不安のスタートとなってしまいました。

さて、全国的には外国人観光客の来日再開、建築的には大規模なプロジェクト等も進んでいるようです。少子高齢化が加速する長崎でも新幹線などにからむ様々なプロジェクトが進んでいます。私の拠点である対馬を含め長崎の離島は、少々取り残された感はありますが。個人

的にはJIA会員として離島を含む長崎の広い範囲にJIA活動の認知を進めるとともに、若い世代のJIA会員獲得に向けて努力していきたいと考えております。未熟な会長ですが、会員みな様のお力をお借りして長崎地域会を盛り上げてまいります。

重田　信爾　大分地域会長

大分地域会の重田です。2020-21年度から継続して、2022-23年度も地域会長を務めさせて頂くこととなりました。前期は新型コロナの影響もあり、十分な地域会活動が実行できたとは言えず、今期は積極的に活動に取り組んでいきます。具体的には、会員・協力会員・若手建築集団+Aとの情報・意見交換などの交流の活性化、地域会としての社会貢献活動への取り組み、九州支部や他地域会との連携・連動した活動の推進、他建築関連団体との連携強化、などを行っていきたいと考えています。また、その諸活動によって、大分にも多数存在する非会員の若手建築設計者がJIAに興味を持ち、連携や入会につなげられればとも期待しています。これから2年間、大分地域会会員の力添えを頂きながら、尽力して参ります。何卒よろしくお願いいたします。

林田　直樹　熊本地域会長

この度熊本地域会長を拝命いたしました（株）林田直樹建築デザイン事務所の林田直樹です。38歳という年齢で地域会長を引き受けるプレッシャーと自己研鑽に大きな時間を費やす必要のある年代である事を理解しながら、覚悟を持って今回、地域会長の職につかせて頂きました。会長職を通して自己研鑽し、公益性と自己表現性をJIAという会を通して学んで自分の作る建築に還元していきたいと考えております。また、熊本地域会では、熊本の若手建築家とベテラン建築家とをつなぐ架け橋になれればと考えております。「未来への結束」を熊本でも果たすべく、次代につなぐ事業活動を行なっていき、魅力あるJIA熊本地域会を作っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

久寿米木　和夫　宮崎地域会長

今年度より宮崎地域会長を仰せつかりました有限会社円設計工房の久寿米木 和夫と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ＪＩＡへは独立開業した時に勤務していた事務所の所長、副所長から勧められた結果入会することとなり現在に至っています。

独立するにあたっては、特に仕事のあてがあったわけではなく、とりあえずやってみよう的な勢いであったので、入会当初は果たしてＪＩＡの活動ができるのかと不安がありました。一方で現実の問題として、日々実務に流されるのではないかとの不安もあり、設計者としての想いを忘れぬために、できるだけ例会には出席し先輩諸兄の作品に触れよう、話をしようと考えていたことを改めて思い出しました。ただ現状は当初想定した通り、積極的にＪＩＡの活動にかかわってこられていない状況が続いてきたいたというのが正直なところです。ここ数年、事務所で高校生のインターンシップの受け入れをさせていただき、ＪＩＡではデザインレヴュー等に接し、若い世代にもっと設計者に興味をもってもらわねば…という気持ちが湧いています。今現在も私を取り巻く状況は以前とあまり変わらず、今更なにができるかはわかりませんが、とりあえずＪＩＡ地域会長職を全うできるよう頑張ります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

宮﨑 秀志　鹿児島地域会代表

今年度から鹿児島地域会代表を務めて参ります㈱エムズ・デザイン工房の宮﨑です。これまで諸先輩方が築き上げてこられた鹿児島地域会ならではの活動の継承は基より、まずはJIAを一般の方々が身近に感じていただけるような工夫ができればと考えております。次世代を担う学生を含む若手支援や、地域交流活動も課題の一つです。今後は地域会として新しい試みにも挑戦していく所存です。会員の皆様のお力添えを頂きながら、地域発展のために尽力していきたいと考えています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

支部長漫遊記 IN 大分

重田　信爾　（大分地域会）

2022年6月21日。第5回目の支部長漫遊記を、大分地域会例会の特別企画として開催しました。会場は、大分市中央町のWAZAWAZAビル（2009竣工、塩塚会員設計監理のリノベーション作品）4FのレンタルスペースTo-tAです。18時から、会場入場時に検温、手指消毒を行い、マスクの着用、窓を開放し密にならぬよう感染症予防対策を徹底の上、開催いたしました。久しぶりの対面開催でもあり、会場には総勢52名…会員15名、協力会員16名、+A 9名、他…の大変多くの方に来場いただきました。

登壇者は、江藤健太様（江藤健太アトリエ）、佐藤誠様（全農九州広域施設事業所大分施設事務所）、高橋由美様（髙橋由美建築設計）、足立心也会員（足立心也建築設計事務所）の4名。皆さん、大分県を拠点にご活躍の40歳代です。ここから4名それぞれの作品や取り組みを発表頂きました。

【江藤健太アトリエ　江藤健太さん】

2011年に独立された江藤さん。今回は、松山支部長の推薦での登壇でした。「コンテクストとの呼応」や「結合点の探求」をレギュレーションとして建築に取り組まれており、過去・最近・これからの作品、最近の活動などを発表していただきました。『豊かさと雑多の共存』を意識されたJRの駅近くに建つ『政所の家』、『うなぎホール』で空間をつなげた30坪の二世帯住宅『別府の家』、3つの用途を3つの切妻屋根で構成した『挾間の家＋ギャラリー』などの作品や、県外建築家の友人と建築談義をする会の取り組みなどについてお話いただきました。

（松山支部長）

個人的に江藤さんに興味があり、今回推薦させて頂きました。まずは、江藤さんにお友達がいて安心しました(笑)これまで現地見学させて頂いた作品や『豊かさと雑多の共存』の言葉から、江藤さんには確固たるものがあり、いったん様々なものを遮断して、環境に対して、いい意味で作品・自分の世界観を落とし込んでいるように感じています。作品全体的に、空間の真ん中が抽象的で境界に意識がいっているイメージですが、そのあたりの説明について、本質的に何を自分が目指していくかの言葉が足りていないと思います。個人的にも非常に注目している建築家なので、建築や空間への説得力を持たせるためにも、江藤さんご自身も課題と感じられている「建築の言語化」について、意識を持って高めていって欲しいです。大分の友達もつくって下さいね(笑)

【全農九州広域施設事業所大分施設事務所　佐藤誠さん】

登壇者唯一の企業人の佐藤さん。農業を中心とする商社である『全農』という組織の建築設計部門で、一般企業人として、一人の建築設計者として発表して頂きました。原風景や学生時代の学び、『全農』での牛舎や葬祭場など多種多様な建築や建築を取り巻く環境を「JA≠全農」や農業団体における減価償却の考え方などの雑談を交えながら、佐藤さんが建築にどう向き合っているか・向き合っていきたいかについてお話しいただきました。

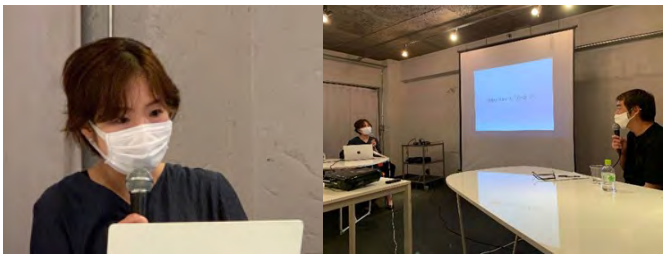
（松山支部長）

佐藤さんの話しの中で、「原風景」「環境へのアプローチ」ということばがありました。それに対して、これまでつくってこられた建築では、牛舎や葬祭場など可能性を感じる建築があるものの、鉄骨造で合理的・人工的なものが多いことが気になりました。が、そこで佐藤さんが現在木造建築を推進しているとのことで、集団の中で何か固定化された何かから脱却を目指されていると感じました。変えていきたい意志を持ちつつ、20年間なかなか変化をもたらせられていないことは大変でしょうが、非常に数・用途共にたくさんの建築を作る組織の責任は大変重いので、そこを踏まえて取り組んでいかれる

ことが重要だと思います。佐藤さんが「木造について、組織内で未体感のものを体感し、実績を積み重ねていく」とおっしゃったことから、木造を推進しながら、カーボンニュートラルや地産地消などの観点からもアプローチしていくとよいと思いました。『プリエール杵築』の内容を、もう少し詳しくお聞きできるとよかったです。

【高橋由美建築設計　高橋由美さん】

2018年に独立された高橋さん。前職の(株)青木茂建築工房大分事務所時代から、これまで様々な用途の建築に関わって来られています。今回は、前職を含めたこれまでの作品…事務所ビルやこども園、飲食店（リファイニング建築）、社屋、菓子店、住宅…などについて発表していただきました。それぞれの建築の、その背景や状況・ご苦労、それらに対する髙橋さんの建築への向き合い方、また設計者で図面を描けない方が散見されることへの憂い、などについてお話いただきました。



（松山支部長）

青木茂建築工房に長く在籍されていたということで、先日青木先生とお話した際、リファイニング検討時は、既存のストックをどう使い再生させるかのプロセスと、その歴史や背景について考えて、街に対しての建築を再生させるかの視点で取り組まれているとのお話を聞きしました。発表頂いたリファイニング建築について、あたかも新築のような表層について疑問をもったのですが、スケルトンに近い形で検討されていた中、既存躯体の防音性能・既存躯体の脆弱性がひどく、施主の強い要望で対応されたとのこと。また、リファイニングはあたかも新築のような大変身も目的としているという点から理解しました。これからストックが大量に生じる時代に、施主意向や将来のことを考えるのはもとより、住宅などの思い入れのあるものでは、なるべく記憶や歴史を残していくスタイルで再生していき、「あたかも新築のような」だけではなく、少し違ったアプローチも考えられているとのことですね。相当な経験をされてきたと思いますし、改修の際は既存建物を疑ってかかるくらい徹底されているという背景を踏まえ、髙橋さんの軸足が新しい再生へと向かい、ノウハウがどう生かされていくか楽しみです。図面が描けない方のお話がありましたが、きちんと設計されている方も多く、描けない方はおそらく淘汰されていくので、その点は心配ないと思います。

【足立心也建築設計事務所　足立心也さん】

今回の登壇者で唯一のJIA会員（2016年入会）、足立さん。大分地域会で最年少との理由で抜擢されました。近作の店舗併用住宅、取り組まれているプロジェクトを中心に発表して頂きました。焼き菓子を販売する店舗兼用住宅『mrk』の足立さんによるスナップ写真での発表と、友人のために1台制作した屋台を、他にも誰か欲しい人がいるだろうと全国展開で販売している『YATAI UNITプロジェクト』、足立さんの事務所から半径1kmにいる人たちで何かつくる…製材所で木材を手配し、足立さんが図面を描き、木工所で木器をつくる…『1kmプロジェクト』などについてお話しいただきました。

（松山支部長）

江藤さんと足立さん、同級生なのに全くスタンスが違いますね(笑)。周りとのネットワークを拒絶(？)するような江藤さん(笑)と、地域・人との関わりの中で仕事やプロジェクトに取り組む足立さん。

建築プロダクトの向こう側に仕掛けていく…プロトタイプは1人のために作ったものだが、実は同じような需要があって、誰か他にも必ず欲しい人がいるのではと考えている…点が面白いですね。あえて屋台を掘り下げますが、福岡で発表された『STUDIO MOVE』の仕事でも、我々が描いていた建築家像から、考えられないくらい幅広い分野に横断しています。今後、5-10年後にどういう活動になっているかで違いがわかると思いますが、足立さんのスタンスは、建築人のネットワークを仕掛けていくというより、「いわゆる建築を軸としてやっているつもり。ただ面白いことをやりたい。」とのこと。ネットワークの中で「建築家」としての期待やニーズが多岐に渡っていくと思いますが、長く設計活動に取り組む中で、これらを全部生かした建築（建物）をつくっていきたいとのことで、期待しています。

以上がそれぞれのプレゼンテーションでした。

そして、ここからは、登壇者4名と松山支部長の座談会です。松山支部長に口火を切って頂きました。

「大分にはU_40建築展（2010-2021）は福岡でも知られていて、おもしろい若い連中がたくさんいるイメージがあります。U_40を中心的にやっていた人たちがいまや40代ということで、今の大分の40代の建築家の事情、ネットワーク・関係性はどういう感じですか？」と、大分県内若手建築家のネットワークに関する投げかけがありました。

座談会の様子

（足立）「今日の登壇者でU_40出展者は自分と佐藤さん。30代の当時はU_40があることもあり同世代で議論などをする場があったが、卒業してから自分はあまりしていない。」

（佐藤）「自分は30代最後の年に出展した。企業人である自分は、それをきっかけにいい影響を受け、同世代と話が出来るようになり、自分の活動にもフィードバックできるようになったと思っています。また、+Aでも意見交換を行ってきました。」

（江藤）「U_40には出展していません。自分は、建築を考える時に、交流をせずに創作活動に自らが集中したい方なので…」

（高橋）「交流はしています。女性建築家同士では結構やっています。また、現在子供向けの〝木育〟を進めていこうということで、女性建築関係者や林業関係者との交流があります。熊本の方ともつながっていて、現時点では女性しかいませんが、男性も入ってもらってもいいかなと思っているところです。」と、二分されました。

それを受け、松山支部長から「九州各県を回って感じるのは、福岡は人数も多く比較的恵まれています。鹿児島、熊本、長崎は、仲間が少なく何となく飢えている感じがしました。大分は70年代生まれの人材が多く、恵まれていると思っていて、これは大分の宝だと思います。大分は自分をはじめ、周りから期待を込めて見られていますが、その自覚はありますか？」

登壇者に語りかける松山支部長

（高橋）「建築士会九州ブロック会議などで県外の方と話すと、大分県は若手がすごいと言われます。他県にももちろんいらっしゃいますが、大分県も負けていないと実感しています。」

（松山支部長）「大分はチームが出来ている感じがします。これは70年代生まれの大分を担っていく方たちが、大分をつくっていくことにつながると思います。自分の話を少しすると、学生時代から福岡で現在60代のすごいメンバーがいました。その方たちが建築家展などの活動をしていましたが、僕ら若手がオープンハウスを案内するとその先輩らがこぞって来られ、無茶苦茶批評され、ボロボロにされて育ってきたので耐力はつきました（笑）　大分の40代の建築家たちが、例えば上の世代や下の世代に自分たちが作ったものを見せるようなことで、建築を通した議論になるとよいと思います。やはり、40代が一番大切な時間でもあるので、互いに触発しあい、大分県・九州で発信していくようなことができるとよいのではないでしょうか。もし今、ちょっと停滞モードであれば、何かつながっていければよいのではないかと思うので、せっかくですから何か宣言・意思表明、コメントがあれば。」

（佐藤）「40代でも、70年に近い世代と、80年に近い世代で、ちょっと感覚が違う気がします。70年に近い世代は、上の世代を見ていたので議論している気がします。」

（足立）「U_40があった時は会があるので議論、切磋琢磨が自動的に出来ていたと思います。停滞しているか

50名を超す参加者

どうかでいうと、自分は停滞していると思います。本当にいい建築をつくっているかということに対して、自分を含めて、大分には若手独立者が多いですが、全国で戦える建築家はそんなにいないと思うので、建築の質を上げる、いい建築をつくる議論はできていないと感じています。」

（松山支部長）「日本で戦うとか、メディアとかはどうでもよくて、大分に必要とされる建築家が文化をつくることが大事です。大分はメンバーも集まって、その土壌があるので、それがたぶんできると思っています。今日いらっしゃっている塩塚さんは、孤独に生きてこられたのです(笑)　でも皆さんには、建築家の市民権を得ているようでもあり、仲間がいて、イベントなどを続けることで後世につながるような、例えば沖縄の建築家文化のような可能性があるなと思っています。福岡は確かに若い方はたくさん独立していますが、仕事は非常に厳しいです。大分は、その面でも、建築家の市民権や存在価値を認められているような場所と感じるがどうでしょうか？」

会場の様子

（足立）「市民権を建築家が得ているかというと、そこまでの土壌はまだと思います。ただU_40や文化的建築土壌のあるいい環境だと思っています。JIA入会前に+Aに入っていましたが、他県に同様の組織はなく、全国的にも知られていました。建築設計業界内部では、若い方の育つ環境があると思います。」

（松山支部長）「先ほど髙橋さんが〝木育〟の話をされましたが、これも発信だと思います。大分の70年代生まれの人たちは相当に責任が重くて、これが20代・30代の後世に続くように、自分たちがそうだったように、皆さんにあこがれて目指されていく責任の重さ・大きさを感じて欲しいと思います。

九州から、大分がどう見られているかプレッシャーも含めて伝えたかったし、この会場にいる方たちも動向を見ているので、是非皆さんが盛り上げていって欲しいです。大分の70年代生まれの人たちは、福岡や他県から非常に注目されています。見られていることをしっかり伝えて終了します。

以上で、大分でのデスカッションを終了し、この後同会場で懇親会を行いました。

懇親会風景

【まとめ】

今回の支部長漫遊記では、大分を拠点に建築に取り組まれる4名それぞれの作品や活動、建築との向き合い方などを拝聴することができ、大変いい機会になりました。

また座談会は、時間が少なかった中、松山支部長と登壇者4名の忌憚のないコメントと、さらには松山支部長からの激励も頂戴し、登壇者のみならず、私を含めその場にいた皆さんの刺激にもなり、いい時間を過ごすことが出来たと思っています。

最後になりますが、登壇頂いた江藤健太様（江藤健太アトリエ）、佐藤誠様（全農九州広域施設事業所大分施設事務所）、髙橋由美様（髙橋由美建築設計）、足立心也会員（足立心也建築設計事務所）、そして、福岡から来県ただいた松山支部長、川津広報委員長、有吉広報委員。皆様、ありがとうございました。

支部長と4人の登壇者

醤油とブランデー

石垣　充　（北福岡地域会）

西日本工業大学教授・つくりもの・泥

私は現在北九州市小倉にある西日本工業大学建築学科で建築計画系の研究者として活動しています。本稿執筆のオーダーは「建築教育の現場から」とのことですがさしたる先進的研究教育活動ではないのでかつて自分が得た教育機会における転換点、そして現在行っている教育での葛藤を記し、その後に現況活動を記述してみます。

半分は思い出話のような文章になるのをお許し下さい。

（古い話なので若干の誇張を含みます）

■思い出　北海道の山奥で

北海道小樽市→北海道室蘭市（山奥）→千葉県市川市→埼玉県富士見市→東京都練馬区→東京都新宿区余丁町→秋田県秋田市→福岡県北九州市…

北海道出身者の溢れる開拓気質のせいなのか判りませんが日本国内を転々と過ごしてきました。今現在も何も縁がない北九州市小倉で大学教員をやっていますが先祖のルーツは石垣島なので真の故郷に戻る南下の途上なのかもしれません。私にとって建築の入口は大学での建築教育なのですが、縁あり北海道の室蘭という工業都市の山奥にある工業大学で建築を学ぶことになりました。

と言いながら前半の２年くらいは建築よりも硬式テニスに熱中していました。そんな自分ではありますが建築への見方が変わる衝撃を得た事件（事故）があります。

一つ目は大学４年の夏。研究室で実施コンペに参加した時の出来事です。徹夜明けで提案模型も完成し先生の最終チェックを受けていた。研究室内には緊張の空気が満ちていました。みなが先生の言葉を待っていました。「何かが足りない…」東京から来た若手建築家（当時）である先生の有り難い一言にみな集中する。「ちょっと醤油を持ってきてくれ！」模型に醤油をかけるのです。徹夜明けで朦朧としていたせいかシットリ醤油に染められていく模型を眺めながら「ああ。醤油も模型材料なのだ」と妙に納得した記憶があります。これは私にとって模型表現や建築への自由度を大きく高めたと思います。良い思い出です。

もう一つは大学の卒業式後、研究室での出来事です。模型に醤油をかけられたり大変お世話になった我々は先生への感謝としてブランデーをプレゼントしたのです。先生は綺麗な木箱に入っている瓶を取り出し、嬉しそうに手でそれを撫で回すのですが、変形瓶のせいか手を滑らせてブランデーはPタイルの床へ。変な形の瓶はさらに変な形のカケラになり研究室内にはブランデーの香りが充満していきます。みな無言になり只只コッパミジンの瓶を眺めていたのですが先生の次の一言が素晴らしい。

「こんな滑りやすい瓶をプレゼントするなんて建築家、デザイナーになる人間として配慮が足りないぞ！」

これも素直に「あーそうなのか」と思ってしまった。今ならナントカハラスメントなどと決めつけられそうな事件ではあるけれど、北海道の素朴な青年（当時）の脳裏に強烈な印象を刻み込んだのです。良い思い出です。

この体験で私は２つのことを学んだ気がするのです。ひとつは物事に対する自由な捉え方や考え方について。そしてもう一つは日常的にデザインを意識すること。素直な私（当時）は多いに感銘を受けました。いつの日か大学で研究活動することを志した瞬間でもあります。ところが研究者になる方法がわからないので、まずは設計事務所に勤めてみました。最初の部署ではコンペ部隊として活動しましたが、この時期から個人的にコンペに多く応募しました。その積み重ねが評価され秋田公立美術工芸短期大学（当時）に講師として採用されました。

昔を懐かしみ自慢話をするようになっては自分もヤキきが回ったものです。が結局のところ教育とは世代や時間の軋轢や葛藤を越えて成熟していくように思えます。

しかし今の大学教育は大らかさに欠け即戦力育成という側面が大きくなっているやに感じます。知恵ではなく知識を与えるのが教育目的になったのかもしれません。設計課題の学生提案はとても良く表現されていますが社会正義を編集したようなツマラなさも感じます。そして近年特徴的な現象は模型をつくる順番が”最後”になっていることです。ディジタルなCGや３D表現が多いのですが、残念ながらPC内のモデルには醤油をかけられない。

それが少々自分には物足りないのです。

■模型による発想演習

そんな状況の中、模型を題材にした発想演習を行っています。身の回りのモノを模型材料に見立てるという課題です。私が醤油をかけられた経験の一端を、そして自由度を感じて欲しいという思いで始めました。色んなモノが模型材料、さらには建築に見えるという体験は設計者にとっては一般的なことかもしれません。この発想演習を通して一部の学生は自由に模型を作り出しています。

・建築模型アイデア図鑑

これらの成果と私が学生時代から続けている模型製作のコツのようなものを書籍としてまとめてみました。九州産業大学建築都市工学部建築学科の矢作先生との共著により「建築模型アイデア図鑑」として学芸出版社から出版されています。子供向けの工作本としても読まれているようで、予想外の喜びを感じています。

書籍詳細はこちら（学芸出版社ウェブサイト）

https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761527747/

■紙上建築　実現しないもの

・アイデアコンペ　研究

大学では「紙上建築」を研究対象としています。具体的にはアイデアコンペ入選案における意匠的変遷などを分析しています。アイデアコンペ研究に取り組む研究者は極めて少ないのですが、実現しない建築も重要な「建築」であると考えています。希望する学生はアイデアコンペ研究をテーマとして卒業研究に取り組んでいます。

・アイデアコンペ　応募

設計事務所勤務時代から一貫してアイデアコンペへの応募を続けています。学生にはどんどん参加して欲しいとの願いを込め「買わない馬券は当たらない」と言っています。まあ「当たらない馬券は買わない」のも賢い判断ですが…。そして建築に限らず、家具・プロダクト・文芸など幅広く応募するようにも伝えています。私も建築以外のコンペに多く参加しており、ハンコのアイデアコンペにも入選（下図　但し最終審査落選）しました。

おそらく自分ほどアイデアコンペに応募している人間はいないと思いますが、それはつまり日本で一番アイデアコンペに落選している人間でもあるということです。

■地上建築　実現するもの（したもの）

私は「紙上建築」に対して実際に建てられる建築のことを「地上建築」と呼んでいます。空想するのも楽しいのですが、やはり実現する建築物にも興味があります。

研究室の活動としてマンション、アパートのリフォームや住宅改修、店舗デザインなども行っています。また研究室所属の4年生、大学院生とそれら実施物件の提案を作成しSD Reviewに毎年応募しています。これは秋田時代から続いておりSD Review2009,2017に入選しました。

しかし日本で一番SD Reviewに落選しているはずです。

・平成筑豊鉄道田川線沿線駅の木質化

研究室所属の３年生と平成筑豊鉄道田川線の駅舎を毎年一箇所づつ学生施工により木質化しています。この取り組みにより2021年に建設コンサルタンツ協会主催のまちづくりコンペで優秀賞を得ています。また2021年度には九州最古の木造駅舎でもある同線の油須原駅を改修しました。ここでは建築向けのプロダクト商品として江戸川木材工業株式会社と共同研究開発した制震装置付意匠壁「ビルアンド」を設置しています。

平成筑豊鉄道田川線油須原駅

photo：ikumasatoshi（TechniStaff）

■小さきものを実現する取り組み

・京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）

福岡県行橋、飯塚農林事務所との共同により、地域材を活用した木製品開発を行っています。2015年から続く「京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）」と言います。アイデアコンペ研究で得られた知見をもとにコンペを企画し、学生が木製品の提案を作成します。2017年には京築ヒノキの名刺入れが提案され、研究室でデザインし地域作家により製作しました。この名刺入れをイタリアで行われたミラノデザインウィークで展示し学生が英語でプレゼンテーションする機会を得ました。これらの取り組みがウッドデザイン賞2017入選に繋がっています。ちくらすの活動は現在も継続され京築ヒノキによる様々な商品開発に至っています。

京築ヒノキの名刺入れ

■個人競技としての「デザイン活動」そして「テニス」

大学での研究・教育・社会活動の傍ら、今までと同様にアイデアコンペ、ものづくり活動も継続しています。個人活動の際には「つくりもの」というペンネームで取り組んでおり様々なデザインを行っています（下図）。複数の場合には画家の鹿子島寛氏、小説家の伊藤寛氏とともに「泥」というユニット名を使っています。

基本的に個人の自由な創作活動です。これが自分の原動力になっています。こういう気ままな活動を学生が見て自由度を高めてもらえると嬉しいと思っています。

近年、大学２年まで熱中したテニスを本格的に再開しました。テニスと建築、デザインには共通点も多く、教育活動にも応用ができるのではと真剣に考えています。

旅するパズル

つくりもののものづくり

ミリカローデンリニューアルプロジェクト

古森 弘一（北福岡地域会）

福岡県那珂川市に建つ複合文化施設のリニューアル工事について紹介させていただきます。令和2年にプロポーザルが行われ弊社を選定いただき、このプロジェクトは開始しました。当初、令和3～4年度に工事が行われる予定でしたが、コロナの影響により4期に分けて令和3～6年度に工事が行われることになりました。公共工事に不慣れな私たちにとっては、類似施設を学び、実施設計完了後もプロジェクトのことをさらに深く検討する絶好の機会となりました。現在、工事は第二期に差し掛かりましたが、相変わらず視察や勉強会を続けながら文化施設について学んでいます。プロポーザルを開始してから竣工に至るまでちょうど、中間の折り返し地点にいる状況でこのプロジェクトについて報告させていただきます。

■ミリカの木

町政から市政に変わって間もない那珂川市として、このプロジェクトを通じて市がこれから発展していくことを市民に伝えたいという想いが、プロポーザルの要綱から読み取れました。そこで、私たちはこのリニューアルによりこの施設が視覚的にも機能的にも変わったことを伝えるため、シンボルとなる「ミリカの木」を提案しました。那珂川市は面積の73%が森林で占められており、林業が盛んな地域です。杉や檜は丁寧に育てられ、九州でも５本の指に入るほど質の高い木材が手に入ることで知られています。そのことを教えてくれたのは朝倉にある杉岡製材所の杉岡氏でした。さらに、杉岡氏とこれまで伝統的な構法でいくつもの住宅を作ってきた福津を拠点とする大工である池尾氏に技術的なアドバイスをもらう体制ができました。構造設計はこれまで弊社の設計にアラップのメンバーとして関わり、現在は東京電機大学所属の笹谷氏、その盟友で香港を拠点とするラム氏にお願いすることになりました。

■zoomでしかできないこと

通常であれば、私たちがそれぞれのメンバーと個別に打ち合わせを重ねていきますが、コロナの影響で全員がzoomを利用できる環境が整っていたため、試しにzoom上で一同に会し、会議を進めてみるとことにしました。すると普段接点の少ない製材所と構造事務所の意見交換が可能になり、これまで着目されなかった問題が徐々に顕在化してきました。例えば強度を上げるためより乾燥を求める構造設計側の要求と、香りと色を無くさないため低温乾燥を求める製材所側から要求がぶつかりあうなどの、これまでにない議論が活発に行われました。

東京・朝倉・福津・香港・小倉を繋いだzoom会議の様子

■山に入りました

会議を重ねるほど意匠設計・構造設計側はあまりにも木が現場に届くまで起こっていることに対して無知であることを痛感することになります。そのことを製材所の杉岡氏に伝えると実際、今回使った木が伐採され、その後植林された場所まで案内し

ミリカの木のために檜が伐採され、その後植林された場所を見学

ていただき、また木について学ぶには伐採体験が一番とのことで、実際に伐採させてもらうことになりました。また、今回木を提供してくださった山主さんにミリカの木を見ていただく機会も作ってくれました。今回使ったのは樹齢70年のものなので、当然一代で育ったものではありません。山主さんは「先祖も喜ぶ、兄弟にも見せたい」と喜んでくださいました。このような活動を続けていくうちに、一本一本の木がそれぞれ物語を含んでいることを知ることができました。最近、これまで木材を鉄骨材のようにサイズや強度のみで設計していたことについて疑問を感じています。

伐採体験の様子

■市民のサードプレイス

建築改修の目処はたったものの最終的には運営のあり方がこれまでと変わらない限りは改修の目的を達成することはできません。今回、行政より「市民のサードプレイスとしてのミリカ」というテーマが掲げられました。多くの市民は「職場／学校」と「家」の二つの居場所を行ったり来たりして生活しています。しかし、その拠点だけでは、解決できない問題も沢山あることは明らかなので、今回この施設が市民にとってもう一つの居場所になることを求められました。それを実現するためのビジョンを策定することを目指し、動き始めました。

■海士町中央図書館

机の上で考えていてもなかなか進まないので、まずは、多くの先進事例を視察しました。そのなかで最も印象的だったのは、島根県の離島である隠岐の島の海士町中央図書館です。人口2000人の島にあるこの図書館では、スタッフが市民の要求をキャッチし、本に限らずあらゆるものを提供しています。植物関係の本棚にはその頃植え時の「大豆のタネ」が置いています。冷蔵庫には、自動販売機では扱えない種類の飲み物が一本ずつ冷蔵庫で販売されていて、しかもそのジュースの美味しさまで説明されています。視察した直後はその価値がよく分かりませんでしたが、プロジェクトを進めていくにあたり、市民が手にしたい情報が何なのかについて考えることが、図書館設計において重要であることを認識するようになりました。

左写真：タネを貸し出す図書館

下写真：
市民のための図書館冷蔵庫

■未来の公共を考える「ミリカのミライ」

現在は九州大学田北研究室・テツシンデザインと一緒にこの施設のビジョンを策定する「ミリカのミライ」を立ち上げ、検討を重ねています。設計者にとっては慣れない考え方も沢山あります。しかし、会議を重ねるうちにこれまで、ここから先は行政の仕事と、無頓着になっていたこともあるのではないかと思うようになりました。グランドオープンまでには運営のビジョンを専門の垣根を超えて議論し、確立していきたいです。

これから2025年（令和7年）の春のグランドオープンに向けて議論を重ね、30年前に全国で沢山作られた文化複合施設のリニューアルの先駆けとして、これまで公共建築の役割を少しだけでも広げることができるよう、地に足をつけて検討していきます。是非グランドオープンの際はJIAの皆様にもご覧いただければと願っております。

第1期工事で完成したミリカの木、新図書館ではもう2本建つ予定

「九州支部大会2003長崎」・「第８回JIA九州建築塾」

三好　定和　（長崎地域会）

■はじめに

九州支部広報委員会から“あのころ”と題して20年以上前の頃を思い出すことになりました。

当時2002～2003年は、長崎地域会会長を拝命して、仕事そっちのけで忙しい毎日を過ごしていたのが忘れられずこの執筆になっています。

さっそく棚の奥から当時のファイルを出してみると10ｃｍもあるファイルが出てきてページをめくるたび思い出が蘇ってきます。月1回の会務が2冊、同様に月1回のCPD研修ファイルが2冊、支部大会と建築塾がそれぞれ1冊の計6冊、その資料は未だに捨てられず20年も棚を占有しているのです。

■追悼

会務から出てきたのは、上質紙A3判二つ折りの会員名簿。30名の顔写真入りで、昨年亡くなられた石野治氏をはじめ池田武邦氏といった著名な建築家も並んでいます。池田武邦氏は、当時長崎総合科学大学の教授でもあって、長崎に在住しておられたので、会務など連絡資料を毎月郵送していたのですが、ある時お会いしたら「自分はJIA会員だが、関東甲信越支部のつもりだ」とおっしゃって、居住地の支部に勝手に移籍してもらっても困る・・・。とのことで「JIAには愛がない！」と私に厳しく叱責されたのを覚えています。本部は「居住地の所属支部扱いになります」の一点張り、変更ができないまま資料を郵送するのを止めた記憶があります。それでもCPD研修で大村湾に面する茅葺きの「邦久庵」に見学に行った折は、快く相手していただき、日も暮れた大村湾が見えるデッキに座って時を過ごしたことを覚えています。夏は虫も飛んでくる中「殺虫剤は絶対に使わないんだよ・・・」と、「団扇ですくって海に投げるんだよ」と聞いて、身をもって環境のことを考えておられたことに感心したところです。５月に亡くなられましたが、やさしいお人柄が、目に浮かび、心からご冥福をお祈りいたします。

邦久庵倶楽部より

■九州支部大会2003長崎

テーマは「建築＠平和」。連日ウクライナで破壊され尽くされた建物を目の当たりにする中、「平和」が当たり前すぎて身近に感じない言葉・・・。あらためて建築は平和の中に成り立つことを思うこの頃です。基調講演も今は亡くなられた「ピースミュジアム」を設計された古市撤雄氏、パネラーには当時の大宇根弘司ＪＩＡ会長をはじめ、高野孝次郎常務、鮎川透支部長を招いて「建築家の方向性」を語っていただきました。

登録建築家制度の必要性をはじめ建築家認定評議会の独立性、認定後の資格担保に必要な建築ＣＰＤ制度の運用、といった今では当たり前のことも試行錯誤の中でした。JIAの将来像や、まずは会員が社会の中で建築家がどうあるべきか、変革に真剣に取り組まなければならないと考えるあの頃でした。

■九州建築塾（第8回建築＠平和）

九州建築塾と支部大会は当時セットで支部行事の一大イベントでした。塾生集めにも苦慮しはじめた頃で、地元大学生を4名含む14名参加人数でなんとか面目をたもったことが思い出されます。今でも当時の塾生の名前は覚えています。講師は造形家・長谷川武雄氏、照明デザイ

ナー・東海林弘靖氏、建築家・末廣香織氏・古市撤雄氏、構造家・今川憲英氏、5名によるスタジオで塾生はほとんど徹夜で奮闘するしかない過酷なスケジュールの中、スタートを切りました。日吉青年の家で始まったスタジオ1では、長谷川氏の「土の特質を知る」で11ｃｍ角の粘土を使って、切る・削る・くっつけるなど「直に触れる手作業」の大切さを体感した。

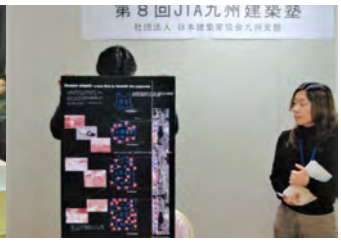
建築@平和　リーフレット

スタジオ2は、東海林氏のクランク型のボックスに光をどう入れられるか、空間模型があらかじめ宿題になっていました。太陽となるライトを照らし、ＣＣＤカメラが模型内部の映像をスクリーンに映す、優秀賞2作品が選ばれたが、今も記憶に残るのは大学生の黒田瑛子さんの「ルリ色万華鏡」内部をマニュキュアで塗り込んで何ともいえない反射光が今も目に浮かんできます。

スタジオ１の様子　スタジオ２でプレゼンを行う黒田さん

一週間置いて再開したスタジオ3では、末廣氏による「建築が平和」に貢献できることはあるのか」がいよいよ始まった。世界の国々の中から一つ選んで「シェルター」の模型をつくる。「本当に建築に何ができるかと言えばそんなに簡単ではない。ただ建築自体が発言する様なものを創ってほしい」と末廣氏。また徹夜の奮闘で、各自なんとか形にできた。記憶に残ったのは、大坪紀美子さんの「blue and white/朝鮮半島」青と白が交互に重なる監視塔で青と白が分断を表現しながらも決して混じることもなくつながるが、お互いがなければ成り立たないという意味を明確に表現していて素晴らしかった。

スタジオ4は、厚生年金会館で支部大会の中で行われ、スタジオ3で創った模型の発表と古市撤雄氏による全作品の講評が始まった。塾生14名はもとより塾生ＯＢが15名、会員が30名、一般客も入れると100名近い中での最大イベントとなった。九州建築塾には塾生の数より多い塾生ＯＢの方々も集まり、卒業生のネットワークも活動母体となって塾をサポートしてくれたことが嬉しかった。


スタジオ3末廣氏のレクチャー　スタジオ4発表の様子

最終日は構造家今川氏のスタジオ5もまた場所を替えて、西部ガスリビングで最後を迎えた。クランク型の模型の後は段ボールの原寸模型だった。5グループに分かれた制作は最後の体力勝負、1.8mのキューブを組立て切込み、様々なデザインができる。そしてローカルな自然に従って設計していくことは「長生きする建築」に繋がることを話された。塾生も100人を超えた当時、今後もいい関係を築き頑張ってください。と締めくくった。支部大会と塾を終わった帰り、とても心地良い疲れの中、肩の荷をおろしたことを覚えています。

スタジオ5作業の様子

あの頃は地域会会長＝事務局でとても大変で、Ｉ期2年で燃焼しきった感がありましたが、月1回のＣＰＤ研修もなんとかこなすことができＪＩＡ会員の皆様に感謝しています。これからもＪＩＡの仲間として、末永いお付き合い宜しくお願いいたします。

狭い門から入ってみた

小嶋　健晴　　（宮崎地域会）

「そして願わくば、建築家は文章の学を理解し、描画に熟達し、幾何学に精通し、多くの歴史を知り、努めて哲学者に聞き、音楽を理解し、医術に無知ではなく、法律家の所論を知り、星学あるいは天空理論の知識をもちたいものである」ウィトルーウィウス建築書より

建築家を志した時、誰もが知るこの言葉と出会い、建築家になるためにはさまざまな知識と経験が必要なのだということを知った。それ以降、興味のあることに手当たり次第手を伸ばすようになっていった。それぞれを深堀していく中で趣味となっていき、今では多趣味な人という評価をいただくことが多くなってきた。そして、そのどれもが私にとっての「たからもの」となっていった。今回は、そんな「たからもの」の一部を紹介させていただきたいと思う。

はじめに、知らない場所に行ってみたいと一台のバイクを手に入れた。といっても学生時代の先輩からのお下がりである。「大事にするならあげるよ」との言葉を守って今でも大事にしている。このバイクで日本中いろんな場所を訪れた。行く先々で、知らない人に親切にされたり、トラブルにあったり、多くの経験をさせてもらった。

いろんな所へ行くたび、もっと多くの荷物を持って行きたくなり、今度はクルマを手に入れた。そのクルマに自転車を乗せていき、途中から自転車で移動するスタイルに変わっていった。自転車での旅はクルマやバイクのそれと違い、流れていく風景が自分の思考の速度に近くなり、より多くの事が感じられた。何よりもちょっと気になる場所に出合った時、寄り道しやすいのがよかった。

やがて、私の移動手段は自転車がメインになっていった。自転車は仕組みが単純なのもいい。旅先でパンクや故障しても修理して旅を続けられる。疲れたらごみ袋にいれて電車に乗って帰ってくることもできる。何より、デスクワークが多い私にとっては、気分転換と運動不足解消にもなるのでいい事ずくめだ。そして、バイク、クルマ、自転車、その時の気分で使い分けて移動を楽しんでいる。それぞれで全く違う経験をさせてくれるのが気に入っている。

やがて、クルマもバイクも自転車も（もちろん私も）古くなり故障が絶えなくなってきた。お店にバイクの修理を依頼するも、古すぎて修理できないとあっさりと断られる。露骨にいやな顔をされるのも気に入らない。仕方がないので道具を揃えて自分で修理をするようになった。可動部に抵抗があるから熱を持ってそこが壊れるのだと、動く部分を磨きあげスムーズに動くようにした。左右の重さが違うから振動が起きるのだと、削ったりして重さを同じにすると振動がなくなった。無い部品は作ればいいと詳細図（らしきもの）を描いて作ってもらって修理した。手に入れてから２５年たった今、自分の手が入っていない部品はなくなった。いまでは非常に調子がいい。

夜な夜な「神は細部に宿るのだ」などと、ひとりボソボソと言いながら手を動かすのも楽しい。どれもこれも手を入れただけ自分に返ってくる。故障もしなくなるし、自分の体への負担も少なくなり、次の日の疲れ方も違ってくる。何でも調子がいいと気持ちがいい。

こんな風に、遊びを通して多くの事を学ばせていただいている。機械のことも少しだけ分かるようになっていた。あっちの方向に行ったら雨が降りそうだとか、天気のことも分かるようになっていた。とりあえず興味のあることに手を出していたら、さまざまな知識と経験に出会っていた。CAD化が進んだおかげもあって、このような遊びをした次の日にも、手が震えて線が引けないなどという事がなくなったのもうれしい。

建築家と呼ばれるにはまだまだ遠いけれど、ほんのすこしだけ建築家に近くなれている気がしている。

上野　裕平　（福岡地域会）

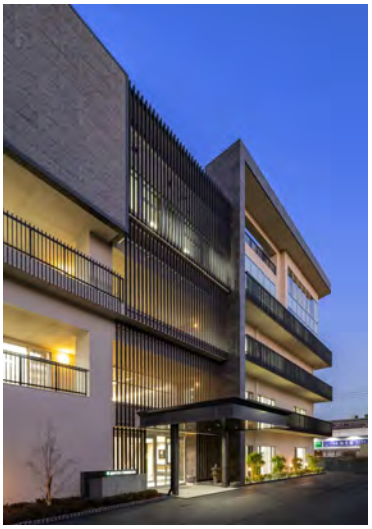


photo by Hiroshi Itou(Itou Pro Photo)

皆さま初めまして。この度JIAに入会した上野と申します。福岡を中心に、九州・沖縄方面や関西、関東まで、日本全国で設計活動をおこなっています。手がける建物の用途は主に病院、クリニック、オフィスビル、金融機関などから、特殊な用途だと廃棄物処理場や水処理施設などの設計監理も行なっております。設計の手法には10年ほど前からBIMを取り入れており、二次元CADから三次元CADそしてBIMへと、目まぐるしく進化していく設計ツールを、どのようにしてうまく使いこなし、設計の成果として結びつけていくかということを日々考えながら設計活動をしています。

JIAに入会した一番のきっかけは、JIAの先輩方と建築設計業界の他団体でご一緒する機会が多くなり、デザイン性の高い作品と数多く生み出してこられた建築家の皆さまと触れ合う機会が多くなったからです。JIAの一員になるためには、推薦していただける会員の方が必要ですし、更に自らの作品も提出しなければなりませんので、非常に緊張しながら入会書類を提出しに行ったのを鮮明に覚えております。晴れて入会することはできましたが、残念ながら世界はコロナ禍真っ只中での入会となってしまいましたので、ほとんどの会合やパーティーなどが中止になってしまいました。ですから対面でお会いできる機会がここ1、2年はほぼ皆無だったのですが、2022年は少しずつ世の中の様相もウィズコロナ・アフターコロナへと移行し始めております。

はやくリアルでお会いして、多くの建築家の方々と建築について語り合い、触れ合い、刺激を受けられる日が来るのを心待ちにしながら日々の設計活動に邁進しております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

小野　良輔　（鹿児島地域会）

このたびJIAに入会いたしました小野良輔と申します。2015年に東京から奄美大島に移住し酒井建築事務所にて3年勤務、その後も奄美大島に残り2018年に小野良輔建築設計事務所を開設し現在に至ります。JIAへの入会は九州支部大会が奄美大島で開催された際にお手伝いをさせていただいたのがきっかけでした。離島という地理上の特性からどうしてもフィジカルなコミュニティに閉じこもりがちだった状況下において、多くの建築家の方々とのコミュニケーションは私自身の乾いた喉を潤すような活力を与えてくれたように思います。

建築はどこに建つにせよ、またどんな用途であれ、その土地の文脈の一部となることであり過去・現在・未来を背負うことであると考えています。さまざまなめぐり合わせで私が事務所を開くことになった奄美大島ですが、東洋のガラパゴスとも呼ばれるこの離島というコンテクストは7年という年月を過ごした私にとってもまだまだ面白いことが多く隠されており、掘り下げずにはいられないほどに知的好奇心をくすぐる魅力的なものです。コンテクストが魅力的であればあるほどついつい建築が単なる特殊解に向かってしまうという悩みも同時にあり、それをぐっとこらえてどこに普遍性があるのかを探すのも今は楽しんでいるところです。そんな建築の普遍性を見つけるには全国の建築家の方々の活動を知り相対化することが必要不可欠です。JIAという、日本全国に活動の場を広げる団体に身を置き、自身の建築家としての軸や信念をどのように醸成できるかを考えながら、団体にも寄与できる自身の活動に邁進したいと考えております。今後とも、よろしくお願いいたします。

住倉　photo by Toshihisa Ishii

いまどき　gakusei eyes

建築学生視点でのよもやま話。自己紹介や建築を志したきっかけや建築教育について思うこと、将来の抱負など

山川 蒼生

佐賀大学 理工学部 理工学科 建築環境デザインコース

テーマ：いまどきの学生と建築物との関わり

私は佐賀大学に在学中の建築学生です。私が建築について学びたいと思ったきっかけは、高校生の頃です。大学への進学を考えている際に、自分のやりたいことが見つからず、いくつかの大学のオープンキャンパスへ参加していました。そこでの建築学生の方との出会いが魅力的なものでした。自分自身で設計・デザインしたものをボードや模型を作成してプレゼンされていたり、実際に建築物としてかたちに残り素敵な空間を多くの方にもたらしていたりと、成果物を届けていることに心が惹かれました。その頃から自分でやってみたいと思うようになり、今に至ります。

私は建築学生になってから、「この建築物を見に行きたい」「この空間はどうなっているのだろう」と思うようになりました。しかし、いまどきの学生はこのような思いから、建築を学んでいない人でも建築巡りを行っている様子が見受けられます。特に最近では、訪れた場所を各々がSNSによって写真や言葉で伝え、それを見てまた別の人が訪れるといったつながりが起きています。好きな建築・空間を誰もが共有でき、私たちのような建築学生ではない人も建築物に興味が湧いていることに嬉しさを感じます。同じ建築物でも、空間の感じ取り方や写真の撮る角度の違いなど、各々の良さが読み取れ、その建築物の魅力もより多角的に伝わっている印象を受けました。

SNSによって『学生と建築物との関わり』が生まれ広がっていくことで、建築の魅力もより多くの人に届けられているのではないかと思います。そのため今後、私自身も建築学生の一員として、建築を学んでいない人と建築物とのつながりを結ぶきっかけとなる情報の共有を、進んで行っていきたいです。

もよおし　event report and announce

支部活動報告や今後のイベント告知

2022建築塾inくまもと 企画書　熊本地域会

□課題：木造の戸建て又は長屋の災害公営住宅設計

□開催日及び場所 2022年9月16日（金）～17（土）

・災害公営住宅見学（南阿蘇村長陽西部団地）

・アートポリス震災ミュージアム工事現場見学（未確定 打診中）

・グループワーキング・発表・クリティーク

□塾内容 具体的な敷地を提示する

敷地：南阿蘇村長陽西部団地（測量図有り）

設計：（株）ライフジャム一級建築士事務所

（株）トポスペース建築研究所

事業主：南阿蘇村

所在地：阿蘇郡阿蘇村大字河陽4975番地

戸建て又は長屋８個（2LDK×8戸） 集会所無し・開発無し・確認申請不要。対象敷地には現在長屋5棟（10戸）がある。8戸の計画とすることで少しゆとりを持たせ、集会所に頼らないコミュニティ形成を図る。戸数を減らし、作業負担軽減第25回くまもとアートポリス推進賞選賞受賞 参考資料の□意（プロポーザル提案書・・・ライフジャム一級建築士事務所より提供）

支部大会「未来への結束～SDGs」　北福岡地域会

「未来への結束～SDGs」をテーマに、皆様との熱い交流の場となれば本望でございます。

開催日は9/23（金・祝）から9/25（日）となっております。9/23（金・祝）の15：30から九州支部大会をスタートし、木村松本建築士事務所 木村吉成様の基調講演やウエルカムパーティを行う予定です。9/24（土）には、当地域会のメイン事業の「日韓学生ワークショップ」を見学いただけます。もちろん、夜には懇親会で小倉を満喫して頂けるよう街を挙げてお待ちしております。

9/25（日）にはエクスカーションを予定しております。宿泊場所やエクスカーションのアンケートを後日ご案内いたします。現在、総力を挙げて準備しております。北福岡地域会会員一同、皆様にお会いできることを楽しみに致しております。どうぞ宜しくお願い致します。

JIA福岡地域会協力会総会･懇親会を終えて

西井　博文（福岡地域会協力会会長）

平素はJIA福岡地域会協力会員企業各社に対しまして格別のお引き立てを賜り深く御礼申し上げます。

2019年末に中国武漢から感染拡大が始まった新型コロナウイルスは瞬く間に世界中に感染が拡大、2020年2月にはWHOがパンデミックを宣言、その後は地球上の全て国々で人の移動や行動、企業活動が制限されました。それ以来、マスク着用、手洗い、手指消毒の徹底、ソーシャルディスタンス維持、会食時の人数制限など不自由な生活を強いられてきました。それぞれの企業や自治体によりルールや制限は若干違ったようですが誰もが不自由な生活を続けてきました。皆さんもご存じのようにこの約2年半にわたり協力会として目立った活動は何も出来ませんでした。会員の皆様にご不自由やご迷惑をお掛けして参りましたことをお詫び申し上げます。

そのような厳しい環境下のなか福岡地域会福田会長様をはじめとする執行部と正会員の方々のご発案によりZOOMによる協力会セミナー(商品勉強会)を毎週金曜日お昼からの定期開催がスタートするなど新しい試みもスタートすることが出来ました。このZOOMによる協力会セミナーはコロナ禍で営業活動が制限され苦しんでいた協力会員企業にとって大きな励みになるとともに協力会活動の新しいあり方と方向性を示すことに繋がったと考えております。福田会長様はじめ関係各位のご尽力に対しまして協力会員を代表して心からお礼申し上げます。このところワクチン接種の進展とともにコロナの感染者数も減少し徐々に以前のような普通の生活が戻りつつあることは本当に有難いことです。

そのような状況になりましたので6月6日(月)に3年振りに協力会総会・懇親会を八仙閣にて開催させて頂きました。正会員様16名、協力会員44名計60名の会員様にご参加戴き、3年振りのリアルでの懇親会は大いに盛り上がりました。懇親会では福岡が誇るチンドン屋日本一のアダチ宣伝社が出演、持ち前の多彩な演技や楽器演奏、話術で会場全体が笑いや笑顔に包まれ楽しく愉快で有意義な時間となりました。

福田地域会長の挨拶

３年ぶりの総会・懇親会の様子

コロナ禍のなかZOOMやTEAMSによるリモートの便利さも実感していますが、やっぱりリアルでの懇親会は良いものですね。今回の協力会総会・懇親会で私がとても嬉しく感じたことがあります。それは会場で正会員と協力会員が昔からの知り合いのように親しく交流し合う姿です。しかも買う側、売る側という仕事上での上下関係ではなく、昔からの友人のような自然体の関係に見えたからです。本当に嬉しい光景でした。

私は2010年に協力会長となり早いもので12年が過ぎました。会長就任直後の2010年5月の協力会総会・懇親会で数名の協力会員様から「JIA協力会員のメリットは何ですか」と尋ねられました。返答に困った私はとっさに「参加できることがメリットです」と答えたことを今も覚えています。それ以来、正会員様と協力会員の関係をもっと良い関係にしたい、垣根を低くしたいと思い続けてきました。

協力会員は自社の商品や工法を売り込む目的で会費を払っているのかも知れません。しかし商品や工法以上に大切なのは商品や工法の長所や欠点、不具合事例等も相談出来る関係だと考えてきました。その為に大切なものはお互いの信頼関係、人間関係です。今回の協力会・懇親会で長年夢見てきた光景を見ることができて大変嬉しく感じました。懇親会中ある正会員様から「九州に転勤して初めて協力会の総会・懇親会に参加しました、福岡は垣根が低く良い関係ですね、そして楽しい」という嬉しいお言葉も頂戴しました。

長年にわたりご支援いただきました歴代の福岡地域会長はじめ執行部の皆様、協力会幹事の方々による努力の積み重ねのお陰です。心から感謝申し上げます。

何でも相談できる深い信頼関係があってこそお互いの仕事に繋がるのだと思います。その為の場を創ることが協力会だと考えています。もっともっと多くの正会員様や協力会員にイベントに参加して欲しいと願っております。これからも協力会として皆様が参加したくなる楽しく色々な催しを企画してまいりますので積極的なご参加を期待しています。

今後ともご支援の程お付き合いの程よろしくお願い申し上げます。最後に今後の予定をお伝えします。

8月22日(月)　納涼懇親ボーリング大会/ラウンドワン天神、福新楼

11月26日(土)　JIA福岡地域会忘年会/八仙閣

報告事項

③　本部委員会・特別委員会活動報告

1	**総務委員会**	**下山道男**
	4/4　第10回委員会　・入退会審査・苦情WG報告・会員の再入会の取扱いについて・役員候補者選挙規程の見直し案について・建築家資格制度準備WG報告・メルアド管理検討チーム報告 5/16　第11回委員会　・入退会審査・役員候補者選挙規程の改定について・2022年度委員会構成について・正会員の再入会に関する取扱い・メルアド管理検討チーム報告・建築家資格制度準備WG報告	

2	**広報委員会**	**委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次**

3	**教育委員会**	**田中康裕**
	報告なし。5月30日開催予定。	

4	**表彰委員会**	**鯵坂徹**

5	**建築家資格制度実務委員会**	**委員長:市川清貴 副委員長:佐々木寿久　資格制度委員：下山道男**
	4月11日　職能・資格制度、建築家資格制度実務委員会合同会議（合同委員会）　・建築家認定評議会結果報告（行政処分者の更新、再登録について）・資格制度準備ＷＧ報告・作業部会報告 5月16日　合同委員会　・本部・支部資格制度実務委員会__登録更新調査報告・2022年度委員会構成について・2021年度事業報告について・資格制度準備ＷＧ報告・作業部会報告（規則類改定について）	

6	**財務委員会**	**作田耕一朗**
	報告事項なし	

7	**業務委員会**	**前田哲**
	2022年5月10　業務委員会開催内容（オンライン） ・告示98号改定に関する方針とアンケート実施検討の進捗 　→添付①国交省改正方針(案)とアンケート調査対応について／添付②　告示改定検討員会今後の予定) ・改正省エネ法の概要 　→添付③報道／添付④概要	

8	**全国学生卒業設計コンクール実行委員会　田中康裕**	
	4月19日委員会開催。6月のコンクールについて役割など協議	

報告事項

④　全国会議活動報告

1	JIA災害対策会議	原田展幸
	報告事項なし	

2	JIA保存再生会議	田島正陽・柴田真秀
	報告事項なし	

3	文化財修復塾	鯵坂徹
	4/13　第10回会議　・各支部の活動と今後予定・福島沖　震度6強の地震災害への対応・2021年度履修状況・第9回総括講座について・修復塾とＨＭとの提携、取り決め・HAサロン開催・座学講座ビデオとテキスト作成について 5/11　第11回会議　・各支部の活動と今後予定・第9回総括講座報告・JIA-HAサロン報告・災害時被災調査等協力協定・福島県沖地震文化財ドクターについて・修復塾とKHNの覚書について・座学講座ビデオとテキスト作成について・2022年度体制について	

4	文化財ドクター	柴田真秀
	報告事項なし	

5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次
	報告事項なし	

5-2	JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次
	報告事項なし	

6	JIA環境会議	福田展淳
	報告事項なし	

7	JIAまちづくり会議	松島逸人
	報告事項なし	

8	JIA25年賞特別委員会	下山道男
	報告事項なし	

9	国際委員会	佐々木寿久
	・4/16 第6回ウェブセミナー「持続可能な都市とSDGsのローカライゼーション」 ・4/22 国際委員会	

10	オンライン_リモート特別委員会	柴田真秀・村上明生
	4月1日、22日web会議あり	

11	デザインレビュー	佐々木寿久
	報告事項なし	

12	住宅等連携会議	佐々木寿久
	・4/13　住宅連携会議 ・4/24　住宅連携会議 ・5/11　住宅連携会議	

13	CPD評議会委員会	田中康裕
	4月28日委員会開催。次回5月26日開催予定。	

支部事業委員会報告

教育支援委員会

1	建築塾WG	下山道男
	報告事項なし	

2	デザインレビューWG	池浦順一郎
	報告事項なし	

3	DR高校生レポーターWG	重田　信爾
	4/18～4/25（随時メール）　DR記録誌掲載レポート対応	

4	建築家派遣（エコルサポート）	福田　哲也
	報告事項なし	

活動支援委員会

1	収益事業WG	川津　悠嗣
	報告事項なし	

2	JIAサポートWG	川津　悠嗣
	報告事項なし	

3	木活（モクカツ）WG	松島　逸人
	報告なし	

4	２５年賞WG	下山 道男
	報告事項なし	

5	九州建築新人賞WG	松山 将勝
	報告事項なし	

6	ケンバイWG	田中康裕
	4月25日開催。次回5月24日開催予定。	

熊本地域会4月例会

日時　2022年4/21　18:30-21:00
場所　市民会館第7会議室
出席人数　12人

1.審議事項、協議事項

1-1：2022年度事業計画について（その１）
・25年賞の推薦について
・各推薦作品説明
・投票の結果、①清和文楽館他、②熊本県立美術館分館、③日本郵政グループ熊本ビルの順に打診
・②熊本県立美術館分館については改修からの年数で良いのか応募要領を確認する

1-2：2022年度事業計画について（その２）

・建築塾の実施について
・コロナ禍の中全員で宿泊は難しい
・①案　阿蘇周辺宿泊（震災をテーマ、災害公営住宅の計画）
・②案　芦北青少年の家宿泊（水害をテーマ、みんなの家などを計画）
　9/16・17（金・土）で決定→。芦北案は宿泊施設の日程空いてなく断念

2.報告事項、確認事項

2-1：九州支部役員会報告
　・熊本地域会規則の協力事務所記載の判断について
　・支部へ確認したところ、協力会員は地域会判断でOK
　・学生会員入会金1,000円は支部に本人が支払い、地域会が本人へ補助、　会費は無料

2-2：5/21九州支部総会，懇親会の出席確認と報告について
　・4/9役員会にて，熊本地域会からは8名出席と報告済み（柴田，古川，上村，原田，高井，堀田，林田，吉永）
　（変更があればお早めに連絡をお願いします）

3.その他

・「木造の屋外階段等の防腐措置等ガイドライン」冊子の配布（8部ありますので，希望される方に配布します）
・本日は忘れたので次回配布

CPD　講座　「2025年に向けて省エネ基準計算とモデル住宅法を比較する」

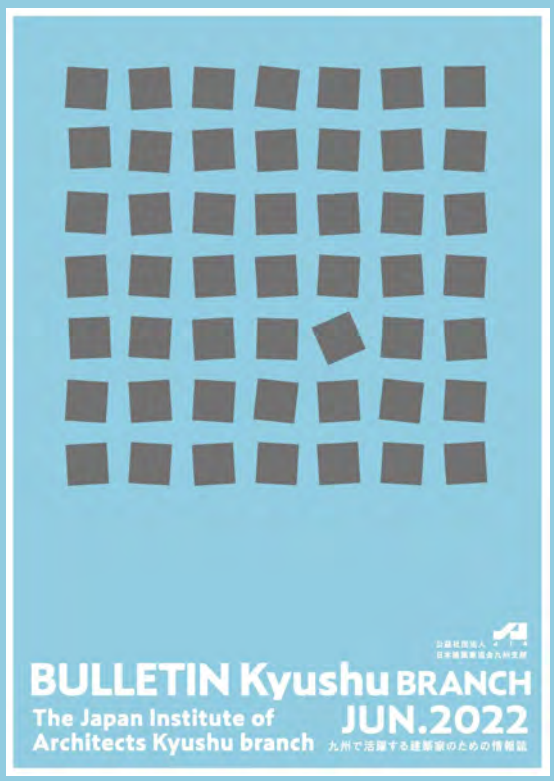
講師：林田直樹
日程：2022/04/21　19:30-20:30

2025年の義務化に向けて、林田が設計した住宅3事例を標準計算ルートとモデル住宅法で比較した結果を説明
Ua0.6という数字がとんでもなく難しいという事を実感してもらいました。設計事務所の設計では手を打たないと住宅が建てれない状況になる事が予想される。

時間が余りましたので、アートポリスコンペに先日提出した案を紹介しました。

アートポリス湯之浦コンペ案　　ばん設計小材事務所と共同提案

編集後記

いつの間にか梅雨があけ、さわやかな夏の青空が広がる6月末。猛暑、水不足、異常気象が気になる夏になりそうです。今回も執筆を快く受けていただいた皆様、支部長漫遊記に登壇いただいた若手建築家の皆様、短い準備期間もかかわらずご尽力いただいた大分地域会の皆様、デザインや校正でご協力いただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。「とくべつきこう」では8名の各地域会長、代表幹事に「新地域会長・代表の自己紹介と所信表明」をテーマに執筆いただきました。今年は地域会長改選年で再任3名新任4名の新体制で動き出しました。これから2年間よろしくお願いいたします。今回で5回目となる「支部長漫遊記」は6月21日に大分で開催されました。大分は独自の若手建築家の組織体がある注目される地域です。70年代生まれ同世代若手建築家4名の作品プレゼン後にかけられた支部長からの批評、激励の言葉はこれからの作品作りの糧になっていくことと思います。建築家のパーソナル・会場の臨場感は伝わりやすい文章と写真で大分地域会会長の重田さんに執筆いただきました。「醤油とブランデー」を石垣さんにご寄稿いただきました。先生のアクティブなお人柄が表れ、建築を楽しく学べている学生の様子が思い浮かびます。アイディアコンペ、地域との関わりあい等、様々な大学キャンパス外の活動も建築学生の学びにつながっていることと思います。当時、先生として東京から来られた若手建築家がどなたか気になります。古森さんご寄稿「ミリカローデンリニューアルプロジェクト」では各専門家との協同設計手法、深く追求する姿勢、大変勉強になります。山主さんのお言葉や一本一本の木の物語、離島の図書館職員さんの取り組み大変感銘を受けました。「ミリカの木は」2021年3月にブルテン「プロポーザル」虎の巻に記載されていないもう一つのコンペポイントではないでしょうか。三好さんご寄稿「九州支部大会2003長崎」・「第８回JIA九州建築塾」では支部大会、建築塾の準備の大変さと当時の熱量、塾生の真剣さが伝わってきます。当時の支部大会テーマ「建築＠平和」は約20年後の不安定な現代に私達が改めて考え直す大切なキーワードです。活動記録のアーカイブ化そしてそれを次世代に繰り返し伝え、繋いでいくことの大切さを感じます。「狭い門から入ってみた」を小嶋さんに執筆いただきました。モノを長年大切に愛することで心が通じ合い、身体の一部になり、人生を一緒に楽しむことができることを教えていただきました。「わさもん」では新入会員の上野さん、小野さんにご自身の作品紹介も兼ねて自己紹介を執筆していただきました。今年度は全国、支部大会、建築塾の再開が予定され、お会いできる機会が増えてくると思います。これからよろしくお願いいたします。新コーナーの１つ「いまどき」は初回に佐賀大学山川さんに執筆いただきました。建築探訪もデジタル化し、建築学生は多くを学べる時代性を感じました。技術により境界がなくなり、建築好きな人が増えることをとても嬉しく思います。もうひとつの新コーナー「協力会つうしん」は福岡地域会協力会会長西井さんに執筆いただきました。商品情報提供も大切ですが、それ以上にお互いの信頼関係、人間関係の繋がりを築くことの大切さに共感し、いつも私達の活動を支えていただいていることに感謝申し上げます。今月号より専門会員森山さんの協力のもと表紙デザインリニューアルを行いました。「建築とスイスタイポグラフィー」をテーマに毎号新たなデザインが展開されます。今年度も支部の様々な情報を伝え、会員の繋がりを感じることができる魅力ある誌面作りに務めてまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

広報副委員長　有吉兼次